2024年3月3日  川越教会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　丸山　勉

あなたは良い葡萄です

［ヨハネによる福音書15章1～5、11～17節］

「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。わたしにつながっていながら、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる。わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている。わたしにつながっていなさい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていなければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながっていなければ、実を結ぶことができない。わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。

これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるためである。わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。わたしの命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。もはや、わたしはあなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人が何をしているか知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである。あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである。互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である。」

[1]　 ぶどうの「木」と「枝」と

　3月に入りました。この月は今日も含めて5回日曜日があり、第四週の24日には主の受難週を迎え、その翌週31日は、主の復活を祝うイースターとなります。早いですね。でも、主のご愛を特別に心に刻むことが出来る、恵みに満ちた３月としてご一緒に進んで行きたいと思います。

　今日の聖書の箇所は「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」と主イエス様が、「ぶどうの木のたとえ」としておっしゃった有名なヨハネ福音書15章の箇所ですよね。まぁ、今の季節は、ぶどうというより、苺がシーズンですけれども、秋のぶどう狩りなどを経験された方もいらっしゃると思います。これは余談ですが、最近はシャインマスカットとか贅沢な品種が脚光を浴びていますけれども、私は普通の小ぶりなぶどうのデラウェアが好きですね。まだ私が小さかった時に、親戚旅行で車で山梨を抜けて信州に行ったことがあるのですけれども、多分勝沼だったのだと思います、そこで飲んだ初めての搾りたてのぶどうジュースが本当に美味しかった！というその時の気持ちは今でも覚えています。

　ところで、“ぶどう畑”の印象というのは、あのぶどうの房と、その房をつける横に広く広がって行く枝ぶりの印象が強いと思います。ある牧師がぶどう狩りをされた時に思われたと書いていたのですが、むしろぶどうの“木”というのは、その枝ぶりの拡がりに比べると、とても地味で、またやせこけ、曲がりくねった、哀れにも思える木だということです。その地味で弱々しくさえ思えるその「木」が、拡がって行く「枝」を支え、沢山の「実（果実）」を生み出しているのですね…。

[2] 「神様の命」があるかないか

それにしても、先週読んだ箇所ではイエス様はご自分のことを「一粒の“麦”が地に落ちて死ななければ」（ヨハネ12:24）と言われました。そして今日は「ぶどうの木」です。私は先週の説教の題を「地にも成させたまえ」とした訳ですけれども、神の独り子イエス様は本当にこの地の上を歩まれたんですよね。「神はその独り子をお与えになったほどにこの“世”を愛された」（ヨハネ3:16）。聖書は驚くほどに、この世を重く捉えています。それは私たち一人ひとり、この地上に生きる私たちが、聖書が語る神様から大切にされているということです！いかに私たちは神様から尊ばれ、大切にされているのか、それをこのたとえから見てみたいと思います。

このたとえの中でよく使われている言葉は「つながっている」とか「つながっていなければ」という言葉です。「留まる」とも訳されます。4節からもう一度読んでみます。「わたしにつながっていなさい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていなければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながっていなければ、実を結ぶことができない。わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである」。 当たり前のことですけれども、ぶどうの枝も、そしてぶどうの実も、いきなり現れる訳ではありません。私たちはスーパーや八百屋さんで、もう「実」だけを買って来る訳ですけれども、ぶどうの大前提となっているのは、ぶどうの「木」ですよね。この「木」が全てを支えています。イエス様が語るように私たちが「ぶどうの枝」であり、その「実」に成れたとしても、そこで私たちが誇れるものは何もありません。「あなたがたも、わたしにつながっていなければ、実を結ぶことができない。…わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである」と言われている通りです。「実を結ぶ」と言うのは、何か特別な才能を開花させるとか、立派な行いが出来るようになるとかそういうことではなくもっと根本的なことです。あなたの中に「神様の命」があるかないか、ということです。ですから、この木につながっていない、留まっていないということは、神様の命から外れてしまうよ、ということです。神様の「脅し」でしょうか？いいえ。一見恐く感じますが、これは実は神様からの愛の呼びかけなのだと思います。6節以下も読んでみますと、主はこう語っておられます。―「わたしにつながっていない人がいれば、枝のように外に投げ捨てられて枯れる。そして、集められ、火に投げ入れられて焼かれてしまう」。―この木に留まっていることで、神様の命が注ぎ込まれ、この木から外れようとするならば、命のつながりが無くなってしまうのだということです。でも、繋がっていれば大丈夫。7節以下の主の言葉です。「あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたの内にいつもあるならば、望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる。あなたがたが豊かに実を結び、わたしの弟子となるなら、それによって、わたしの父は栄光をお受けになる」。 神様は私たちを愛し、祝福したくて祝福したくてしょうがないんです。儚く虚しいものに心ひかれる生き方をするなと。神様とつながっていれば、あなたの心は満たされた人生を歩むことが出来る。そして、あなたがあなたらしい人生を喜んで生きることによって、父なる神様も栄光をお受けになるのだ、と語っています。

[3] 「あなたがたは既に清くなっている」

15章13節以降では、イエス様は、ご自分の贖いの死について語っておられると思います。「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。わたしの命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。もはや、わたしはあなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人が何をしているか知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである」。―「もはや、わたしはあなた方を僕とは呼ばない。…友と呼ぶ」 と言われます。私たちは、神様・イエス様の「友」なのです！凄いことではないでしょうか。そして、このことは、この言葉がいつ語られたのかということを見てみる時に、その神様の憐みの深さをしみじみと感じるのです。実はこのヨハネ15章というのは、他の福音書で言うなら、主の最後の晩餐の時か、その直後という位置づけなのです。ヨハネ福音書13章1節で既にイエス様は、弟子たちとの別れを心に深く思ってこのように記しています。「さて、過越祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた」。―「この上なく」。他の訳では「極みまで」です。…私たちは、残念ながらと言ったらいいでしょう、主の弟子たちと同じだと思うのです。あの最後の晩餐の時でさえ「誰が最も偉いのか」と言い争ったり、ユダはその直後、イエス様を捕らえさせるため引き渡してしまいました。“よい実を結ぶ”どころではありません。むしろ、自分の方からイエス様との絆を切り、命のつながりを断ち切ろうとしている無知で惨めな者、それが弟子たちであり私たちではないでしょうか？

しかしイエス様は、このぶどうの木のたとえで、初めにこうおっしゃっているのです。「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。わたしにつながっていながら、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる。わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている。わたしにつながっていなさい。わたしもあなたがたにつながっている」。―ここです。「わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている」。わたしイエスのわざと言葉によってあなたは既に清くされているのだ。あなたはダメなぶどうではなく、良いぶどう、清い実のぶどうとされているのですよとおっしゃっているのです。…私は、あぁ、このことを思い起こすことのためにも「主の晩餐式」はあるのだなと思いました。主がこの私を見捨てない。私は自分に絶望したり、罪・過ちを犯すことを繰り返したとしても、主は「私はあなたを友と呼ぶ。友のために命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」と言って、十字架で私たちに対する愛の極みを示して下さったのです！

　ぶどうの木というのは、「接ぎ木」をされるのですね。台木と穂木を繋げるのですが、それは樹液で結びつくために、互いの切り口と切り口を繋げます。これは霊的な意味があります。イエス様の十字架の血汐が私たちを清めるように、私たちの傷（罪）と、イエス様の傷（十字架）が繋げられるのですね。そこから、神様の命が流れ込んでくる。“もはや私が生きているのではなく、キリストが私の内に生きて下さるのだ”とパウロは言いましたけれども、その新しい命が、もう私たちの中に始まっているのです。ヨハネ15章16節で、主はこう語って下さいました。―「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。あなたがたが出かけて行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、わたしがあなたがたを任命したのである」。

私たち一人ひとりは、神様に捕えられている「良い葡萄」です！こんなに嬉しいことはありません。目の前のことだけに振り回されない自由を頂き、自分のちっぽけなプライドを捨てて、神様の恵みの光を、燦燦と受けて生きて行きましょう！私たちは神様の「友」です。お祈りを捧げます。―主なる神様、あなたはこんな者をあなたの「友」として下さり、あなたという命の源につなげて下さいます。十字架の血汐が私たちを赦し、生かし、共に生きて行く勇気を与えて下さいますから感謝します。どうぞ、これから行われる主の晩餐を通しても、私たちをあなたのものとして下さい。救い主イエス様の御名によって祈ります。アーメン。